

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
学術的文章の作成とその指導 01 (文章作成力養成)	太田 裕子	前期	2	木2時限

授業概要・授業の到達目標

本授業は、学術的な文章を書く上で重要な技能を身につけること、及びその指導法を身につけることを目的とします。日本の大学(院)では、多くの授業や演習で、レポートを最終評価の判断材料にするにも関わらず、レポートや論文の書き方を体系的に指導するシステムがありません。早稲田大学では、本授業を通して学生が学問をするための基礎的な態度を知り、学術的な文章を書くための技能を身につけることを奨励しています。

「学術的文章の作成とその指導」は、三つのクラスに分かれています。「文章作成力養成」クラスと「指導力養成」クラスと「留学生向け」の三つです。本授業(「文章作成力養成」クラス)は、自分の修士論文・博士論文を書くために学びたい人のためのクラスです。

「志望理由」の欄に、修士または博士の研究計画(研究計画は1,000字)を、書いて下さい。クラス定員は20名です。希望者数が定員を超えた場合は、究計画書を審査して履修者の決定を行います。ご了承下さい。履修の可否とクラス分けの結果は、4月5日前後にメールでお知らせします。

文章を書く技能は、他の技能と同様、フィードバックを受けて初めて磨かれるものです。しかし、文章へのフィードバックは、残念ながら、通常ではなかなか得ることができません。そこでこの授業では、論理的で明快な学術的文章を書く一つの技能または一つのライティング・プロセスを扱います。授業では、その技能に関する説明や練習を行い、授業後にその週の技能を使って短い文章を書いてくる課題が出されます。クラスの他の学生と文章を読み合い意見交換をするピア・レスポンス方式をとりますので、活発な授業への参加を期待しています。

授業計画

- [第1回] 外来語と専門用語を扱う
- [第2回] 言葉と思考、「一文一義」で書く
- [第3回] 接続表現で文と文をつなげる
- [第4回] 語句を明確に使う
- [第5回] 「マップ」を作って書く
- [第6回] 「パラグラフ」を作る
- [第7回] 主張を根拠で支える
- [第8回] 論点を整理する
- [第9回] 抽象度の調節をする
- [第10回] 参考文献を示す
- [第11回] 「ブロック引用」をする
- [第12回] 要約引用をする
- [第13回] 図や表を作る
- [第14回] 「私語り」から脱出する
- [第15回] 題名をつける

教科書

佐渡島紗織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック ライティングの挑戦 15週間』ひつじ書房、

2008) 2,000 円 + 税

参考文献

評価方法

授業への参加 30%、提出された文章の出来栄え 70%。

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>) で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
学術的文章の作成とその指導 02 (指導力養成)	佐渡島 紗織	前期	2	木4時限

授業概要・授業の到達目標

本授業は、学術的な文章を書く上で重要な技能を身につけること、及びその指導法を身につけることを目的とします。日本の大学(院)では、多くの授業や演習で、レポートを最終評価の判断材料にするにも関わらず、レポートや論文の書き方を体系的に指導するシステムがありません。早稲田大学では、本授業を通して学生が学問をするための基礎的な態度を知り、学術的な文章を書くための技能を身につけることを奨励しています。

「学術的文章の作成とその指導」は、三つのクラスに分かれています。「文章作成力養成」クラスと「指導力養成」クラスと「留学生向け」の三つです。本授業(「指導力養成」クラス)では、自分の修士論文・博士論文の準備という目的に加えて、早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラムにおいて、学部生向け授業の指導補助に携わるための応募資格レベル到達を目指します。

本授業は、修士1年生、博士1・2年生のみを対象とします。「志望理由」の欄に、修士または博士の研究計画(研究計画は1,000字)を書いて下さい。クラス定員は20名です。希望者数が定員を超えた場合は、研究計画書を審査して履修者の決定を行います。ご了承下さい。履修の可否は、4月5日前後にメールでお知らせします。

文章を書く技能は、他の技能と同様、フィードバックを受けて初めて磨かれるものです。しかし、文章へのフィードバックは、残念ながら、通常ではなかなか得ることができません。そこでこの授業では、論理的で明快な学術的文章を書くための技能を、実際に文章を書き、直していくことで学びます。具体的には、週ごとに一つの技能または一つのライティング・プロセスを扱います。授業では、その技能に関する説明や練習を行い、授業後にその週の技能を使って短い文章を書いてくる課題が出されます。クラスの他の学生と文章を読み合い意見交換をするピア・レスポンス方式をとりますので、活発な授業への参加を期待しています。

授業計画

- [第1回] 外来語と専門用語を扱う
- [第2回] 言葉と思考、「一文一義」で書く
- [第3回] 接続表現で文と文をつなげる
- [第4回] 語句を明確に使う
- [第5回] 「マップ」を作って書く
- [第6回] 「パラグラフ」を作る
- [第7回] 主張を根拠で支える
- [第8回] 論点を整理する
- [第9回] 抽象度の調節をする
- [第10回] 参考文献を示す
- [第11回] 「ブロック引用」をする
- [第12回] 要約引用をする

教科書

準教科書：佐渡島紗織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック ライティングの挑戦 15週間』(ひつじ書房、2008)2,000円+税
(どうしても購入しなければならないというものではないが、授業内容が本書に準拠しているため、手元に置くことをお
2010年度大学院共通科目講義要項.doc

勧めします。)

評価方法

授業への参加 30%、提出された文章の出来栄え 70%

備考

関連 URL

<http://www.cie-waseda.jp/awp/ondemand/tutortraining.html> 「学術的文章の作成」授業ページ

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>) で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
学術的文章の作成とその指導 03 (留学生向け)	加納 なおみ	前期	2	金 2時限

授業概要・授業の到達目標

- ・修士論文などアカデミックライティングの構成と書き方のプロセスを理解し、論理的整合性、一貫性を高める書き方を学ぶ。
- ・思考を深め、文章化するために有効な方法を学び、自分の意見を確立していく。
- ・読み手の視点を獲得しながら、書き手としての成長をめざす。
- ・学術論文の書式を学ぶ。
- ・ピア活動を通じ、ライティングコミュニティー/グループ構築の可能性を探る。
- ・文章と口頭発表の特色を理解し、基本を習得する。

授業計画

1. 枠組み・研究課題・研究対象・研究方法を設定する
2. 先行研究・資料を調べる
3. 引用する(1)
4. 引用する(2)
5. レビューを書く
6. 「マップ」を作り、論点を決める
7. リサーチクエスチョンを立てる
8. アウトラインを作る
9. パラグラフを書く
10. 推敲する その(1)
11. 図表・文献リストを作成する
12. 口頭発表し、フィードバックし合う(1)
13. 口頭発表し、フィードバックし合う(2)
14. 推敲する その(2)
15. 総まとめ

教科書

参考文献

評価方法

授業への参加 30%、提出された課題の出来栄 60%、口頭発表 10%

備考

関連 URL

http://open-waseda.jp/common/contents/syllabus/9a00006003_02.html

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
学術的文章の作成とその指導 04 (文章作成力養成)	佐渡島 紗織、吉野 亜矢子	後期	2	火2時限

授業概要・授業の到達目標

授業計画

教科書

参考文献

評価方法

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
学術的文章の作成とその指導 05 (指導力養成)	太田 裕子	後期	2	木3時限

授業概要・授業の到達目標

本授業は、学術的な文章を書く上で重要な技能を身につけること、及びその指導法を身につけることを目的とします。日本の大学(院)では、多くの授業や演習で、レポートを最終評価の判断材料にするにも関わらず、レポートや論文の書き方を体系的に指導するシステムがありません。早稲田大学では、本授業を通して学生が学問をするための基礎的な態度を知り、学術的な文章を書くための技能を身につけることを奨励しています。

「学術的文章の作成とその指導」は、三つのクラスに分かれています。「文章作成力養成」クラスと「指導力養成」クラスと「留学生向け」の三つです。本授業(「指導力養成」クラス)では、自分の修士論文・博士論文の準備という目的に加えて、早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラムにおいて、学部生向け授業の指導補助に携わるための応募資格レベル到達を目指します。(早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラムにおける学部生指導補助については、http://www.waseda.jp/cie/writing_center/pdf/ta.pdf をご覧ください。)

本授業は、修士1年生、博士1・2年生のみを対象とします。「志望理由」の欄に、修士または博士の研究計画(研究計画は1,000字)を、書いて下さい。クラス定員は20名です。希望者数が定員を超えた場合は、研究計画書を審査して履修者の決定を行います。ご了承下さい。履修の可否とクラス分けの結果は、4月5日前後にメールでお知らせします。

文章を書く技能は、他の技能と同様、フィードバックを受けて初めて磨かれるものです。しかし、文章へのフィードバックは、残念ながら、通常ではなかなか得ることができません。そこでこの授業では、論理的で明快な学術的文章を書くための技能を、実際に文章を書き、直していくことで学びます。具体的には、週ごとに一つの技能または一つのライティング・プロセスを扱います。授業では、その技能に関する説明や練習を行い、授業後にその週の技能を使って短い文章を書いてくる課題が出されます。クラスの他の学生と文章を読み合い意見交換をするピア・レスポンス方式をとりますので、活発な授業への参加を期待しています。

授業計画

- [第1回] 外来語と専門用語を扱う
- [第2回] 言葉と思考、「一文一義」で書く
- [第3回] 接続表現で文と文をつなげる
- [第4回] 語句を明確に使う
- [第5回] 「マップ」を作って書く
- [第6回] 「パラグラフ」を作る
- [第7回] 主張を根拠で支える
- [第8回] 論点を整理する
- [第9回] 抽象度の調節をする
- [第10回] 参考文献を示す
- [第11回] 「ブロック引用」をする
- [第12回] 要約引用をする
- [第13回] 図や表を作る
- [第14回] 「私語り」から脱出する
- [第15回] 題名をつける

教科書

佐渡島紗織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック ライティングの挑戦 15 週間』(ひつじ書房、2008) 2,000 円 + 税

参考文献

評価方法

授業への参加 30%、提出された文章の出来栄え 70%。

備考

関連 URL

「学術的文章の作成」授業ページ

<http://www.cie-waseda.jp/awp/ondemand/tutortraining.html>

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
学術的文章の作成とその指導 06 (留学生向け)	加納 なおみ	前期	2	金 2時限

授業概要・授業の到達目標

- ・修士論文などアカデミックライティングの構成と書き方のプロセスを理解し、論理的整合性、一貫性を高める書き方を学ぶ。
- ・思考を深め、文章化するために有効な方法を学び、自分の意見を確立していく。
- ・読み手の視点を獲得しながら、書き手としての成長をめざす。
- ・学術論文の書式を学ぶ。
- ・ピア活動を通じ、ライティングコミュニティー/グループ構築の可能性を探る。
- ・文章と口頭発表の特色を理解し、基本を習得する。

授業計画

1. 枠組み・研究課題・研究対象・研究方法を設定する
2. 先行研究・資料を調べる
3. 引用する(1)
4. 引用する(2)
5. レビューを書く
6. 「マップ」を作り、論点を決める
7. リサーチクエスチョンを立てる
8. アウトラインを作る
9. パラグラフを書く
10. 推敲する その(1)
11. 図表・文献リストを作成する
12. 口頭発表し、フィードバックし合う(1)
13. 口頭発表し、フィードバックし合う(2)
14. 推敲する その(2)
15. 総まとめ

教科書

参考文献

評価方法

授業への参加 30%、提出された課題の出来栄 60%、口頭発表 10%

備考

関連 URL

http://open-waseda.jp/common/contents/syllabus/9a00006002_06.html

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
国際人養成実践講座	内海 善雄、松本 充司	後期	2	木5時限

授業概要・授業の到達目標

前国際電気通信連合（ITU、国連の専門機関）事務総局長より、外国人との交渉や国際社会で活躍できるための基礎知識と心構えを、第一線で活躍している実務家も招き、実践的に付与する。対外交渉や国際機関での仕事のやり方の実際を知るとともに、国際社会の人間関係や、国際関係のパワーポリティクスを理解する。なお、本科目は日本語で授業を行なうが、相当程度の英語使用能力が要求される。また、大学院生を対象に授業を行なうが、将来国際社会での活躍を志す学部生（3年以上）にも開放する。

授業計画

- 1 国際社会とは
- 2 国際交渉の基本（1）
- 3 国際機関
- 4 国際機関の中の人事管理
- 5 国民性
- 6 国際会議（1） 概要
- 7 国際会議（2） 実地経験
- 8 国際会議（3） 議事手続き
- 9 国際社会で働く（1） ゲスト
- 10 国際社会で働く（2） ゲスト
- 11 国際社会で働く（3） ゲスト
- 12 国際交渉の基本（2）
- 13 スピーチのしかた（1）
- 14 スピーチのしかた（2）
- 15 スピーチのしかた（3）

教科書

内海善雄著「勝つための国際交渉術」日刊工業新聞社

内海善雄著「国連という錯覚 日本人の知らない国際力学」日本経済新聞出版社

参考文献

授業中に適宜紹介する

評価方法

- （1）出席 50%。
- （2）レポート 50%（テーマを与え、国際会議で行うスピーチの原稿を作成）。

備考

<http://yutsumi.web.fc2.com/Education/wasedacourse.htm>

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
研究倫理概論	土田 友章、浦川 道太郎、高林 龍、深澤 良彰、 福田 耕治	後期	2	フルオンデマ ンド

授業概要・授業の到達目標

最近、研究倫理をめぐる虚偽記載、データ捏造等の不正行為等が相次いで明らかになっています。論文作成・発表、共同研究等の研究活動を遂行するうえで、予めわきまえておくべき研究倫理について、知的財産権、被験者保護等の基本的事項をはじめ、欧米諸国における取り組み、利益相反、企業倫理、更には研究ノートとデータ管理、安全保障等に関する事項について、学内外の専門の先生方により、具体的な事例を多く交えながらオンデマンド形式でお伝えします。文系理系を問わず今後研究に従事する多くの大学院生および学部3・4年生が、研究倫理に関する理解を深め、研究者として地球市民として世界に参加してゆく態度を整えることを期待します。

授業計画

【序論 なぜ研究の倫理か 現代世界における科学技術研究】

1. はじめに なぜ研究倫理か
2. EU/欧米諸国における研究倫理
3. 研究における不正行為：FFP（ねつ造・改ざん・盗用）の実際
4. 研究における不正行為と法：民事訴訟

【研究の計画】

5. 研究計画のあり方
6. 被験者保護の基本（1）（ヒトゲノム、ES細胞を含む）
7. 被験者保護の基本（2）（動物実験を含む）
8. 質的調査の研究倫理（新規）
9. 利益相反の諸相

【研究の遂行】

10. 研究ノートとデータ管理の実践
11. メンターとトレイニー, Authorship と出版の倫理, 共同研究

【研究の成果】

12. 知的財産をめぐって
13. 研究倫理と企業倫理
14. 安全保障の観点から見た科学技術者の社会的責任
15. 研究倫理の実践：早稲田大学の体制

教科書

未定

参考文献

未定

評価方法

講義後の小テストを踏まえ総合的に評価する。

備考

理系、文系を問わない内容です。多くの大学院学生に受講して欲しいと思います。

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
質的研究方法入門	太田 裕子	前期	2	火3時限

授業概要・授業の到達目標

質的研究方法を用いた研究を行い、人文社会科学系の学術論文を作成する際必要となる基本的な考え方や研究手法を学ぶことを、本授業の目的とする。

質的研究方法は、実証研究における領域のひとつで、「具体的な事例を重視して、それを時間的、地域的な特殊性の中で捉えようとし、また人々自身の表現や行為を立脚点として、それを人々が生きている地域的な文脈と結びつけて理解しようとする」(フリック, 2002, p. 19)点がその特徴である。大がかりな質問紙調査や実験によって収集したデータを統計処理する数量的研究方法に対し、質的研究方法は、観察、インタビュー、映像分析などの手法を単独または複数組み合わせることによって、現象を捉えようとする。

どのような手法を用いてデータを収集し分析するかは、研究者の立場や研究の問いによって決定づけられる。そのため、本授業では、質的研究方法の理論的背景を理解したうえで、受講者が自分の研究の立場や問いに適した研究方法を見つけることを目指す。本授業では、特に観察とインタビューを取り上げ、それらの種類と方法を学ぶ。

本授業は、次の三点をねらいとする。

- 1) 質的研究方法の理論的背景、および観察とインタビューの種類と方法を理解する。
- 2) 質的研究法の強みと弱み、倫理的問題を理解する。
- 3) 観察、インタビューの手法を用いた研究をデザインし、実施することができる。

受講者は、実際に観察やインタビューを用いた研究を行い、小型の学術論文を作成することを通して、上記三点を学ぶ。

授業計画

未定

教科書

参考文献

評価方法

課題レポート 60%、最終レポート 25%、授業への参加度 15%

備考

本授業は、初めて質的研究方法を学ぶ修士課程の学生を主な対象とする。所属する研究科で研究方法に関する授業が設置されている場合には、そちらを受講されたい。

また、本授業は、フィードバックの都合上、受講者を20名までとさせていただきます。そのため、履修希望者が定員を超える場合には、書類選考を行う。

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
グローバル起業戦略 - 夢は世界に(大学院用)	大久保 秀夫、東出 浩教	前期	2	木6時限

授業概要・授業の到達目標

(1) 授業の目的

授業の目的は、「自分の人生を彩るグローバルな事業達成体験」を積み重ねるための、

「起業家的なマインドセット」と

「グローバルビジネス展開のためのスキルセット」

を大学院の方々に身につけていただくことです。

不確実なこれからの時代に“幸せで成功したキャリア”を勝ち取るためには、国境の枠を超えて活躍できる能力が必要不可欠であり、この点は諸外国の科学的な研究成果を振り返っても明らかです。

言語能力も重要ですが、むしろ、自分で事業を興す、もしくは企業の一員として企業での新規プロジェクトを担当し、事業開始後、数年の内には海外数カ国(しばしば数十カ国)のパートナーとアライアンスを組む。結果、世界の様々な地域の顧客に喜ばれる“価値”を提供できる。これらを達成するためのスキルと能力がキャリアへの扉を開くキーになることが分かってきています。国内の大企業で自分のポジションを守っていけば幸せになれる、という時代は終わりました。

(2) 授業の方法

授業は大きくは3つのブロックに分けられます。すべてのブロックにおいて、ゲストや教員からの一方的なメッセージ発信ではなく、ゲスト、教員、受講者がやり取り(講演、インタビューセッション、ケースディスカッション等)をしながら、受講者“腹に何かが落ちる”経験を達成することを目標とします。

具体的に、第一のブロックでは、日本の起業家の方々と、すでに国境を越えて羽ばたき大きな成功を収めている起業家をお招きします。ゲスト講師による実践的な経験・体験をふまえた上での講義担当教員との「対談」と受講者の質疑が授業のコアになります。

第二ブロックでは、大所高所から日本企業の国際化を眺められてきた方々を交え、受講者、担当教員との対話と議論をオーガナイズします。

そして、第三ブロックでは、ここ3年ほどの間にグローバル市場にチャレンジをし始めた新進気鋭の起業家をお招きし、将来の国境を越えた起業へのヒントを紡ぎ出します。

また、受講者の方々には、“大きく夢”をもってもらうための2つのプロジェクトワークにチャレンジしてもらうことなる予定です。

(3) フォーバル寄附講座

本講座は、株式会社フォーバルからの寄附講座となっています。フォーバル社は1980年に創業され(<http://www.forval.co.jp/index.htm>) 今日まで成長し続けている企業です。現在でも、数々の新規事業を手掛け、一方で、アントレプレナー制度などにより、起業家の育成に取り組むと共に、数々の“国境を超える活動”に取り組んでいます。

授業計画

全12回の授業を以下の予定で実施します(一部変更の可能性あり)。

第1回 講義:「グローバル起業戦略の意味、意義、重要性」とは

本講義の主題の解説、ゲスト講演を聞くにあたっての事前学習の提示など

第2回 起業そしてグローバリゼーションを達成した起業家および企業戦略のケーススタディ(1)

ユニデン株式会社 取締役ファウンダー 藤本 秀朗

第3回 起業そしてグローバリゼーションを達成した起業家および企業戦略のケーススタディ(2)

株式会社パソナ 代表取締役 南部 靖之

第4回 起業そしてグローバリゼーションを達成した起業家および企業戦略のケーススタディ(3)

株式会社エイチ・アイ・エス 取締役会長 澤田 秀雄

第5回 これまでのまとめ

担当教員による講義および受講者との議論、および翌週のプレゼンテーションへの導入

第6回 受講者の皆さんのプロジェクトワークの第一回発表と議論

第7回 日本放送協会(NHK)第17代会長 海老沢 勝二、および

在タイ日本国元大使 太田 博 + 懇親会(1回目)

第8回 第2回課題に向けたワークショップ

第9回 グローバル戦略を展開しつつある起業家および企業戦略のケーススタディ(1)

株式会社クリーク・アンド・リバー社 代表取締役 井川 幸広

第10回 グローバル戦略を展開しつつある起業家および企業戦略のケーススタディ(2)

株式会社デジタルハーツ 代表取締役 宮澤 栄一

第11回 グローバル戦略を展開しつつある起業家および企業戦略のケーススタディ(3)

株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役社長 南場 智子

第12回 受講者の皆さんのプロジェクトワークの第二回発表とラップアップ + 懇親会(2回目)

(注1) 5月第2週、第3週に関しては休講の予定。全3回に相当する補講を、受講者の予定を勘案し期間中に設定します。

(注2) 第7週および第12週に関しては、6限および7限の時間帯に懇親会を開催いたします。

教科書

特に指定しない。必要に応じて講義内で資料を配布する

参考文献

評価方法

出席点(ゲスト対談へのコメントなど含む)...40%

ワークショップ、中間提出課題...20%

レポート課題...40%

備考

(1) 寄附講座の特色として、フォーバル社において培われた知識・経験・ネットワークを活かしたリアリティのある、一方通行でない授業を実施します。受講者・講演者が本音を語り合う交流会、アントレプレナー制度やインターンシップなどの機会へも積極的に参加し自分を成長させてもらえればと期待しています。

(2) フォーバル社寄附講座も今年で3年目です。今回は、「グローバル起業戦略」と内容も一新した新規科目になっていますので、これまでに「ブロードバンド起業塾」を受講した方も履修可能です。

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
持続可能な発展とリスクマネジメント(アジア編)(大学院用)	天児 慧、天野 正博、勝間 靖、森川 靖、山田 満	前期	2	金 3 時限

授業概要・授業の到達目標

今日、世界は「人間の安全保障」ひいては「持続可能性」という問題に直面しており、国際社会では、持続可能な発展に向けて企業に対する様々な要請も強くなっている。そこで前期では人間の新たな脅威の問題を特にアジアを中心に考え、状況の把握とその問題解決への取り組みを考える。これらはグローバルな現象として理解できるものであるが、そこには「アジアの特徴」を見ることができ、アジア自身がそのことをしっかりと認識し対応していく必要があり、いかにしてこの問題に取り組んでいくべきか、何をなすべきかが問われてくる。

この講座ではこれらの問題に関する専門的知識を提供し、かつ企業の取組みの現状を説明する。特にアジアの全般的な状況の理解を目的とする。

授業計画

第1回：天児 慧 総論1

第2回：関 正雄 総論2

第3回：松岡俊二：環境

第4回：松岡俊二：環境

第5回：天野正博：環境

第6回：佐野 肇（株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント、ERM 研究開発部上席研究員）＝自然災害・気候変動とリスクファイナンス

第7回：阿古智子：感染症

第8回：大谷順子：感染症

第9回：工藤宏一郎：感染症

第10回：山本雅司（株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント取締役、BCM 事業本部長）＝感染症リスクマネジメント

第11回：阿古智子：貧困と女性

第12回：勝間 靖：貧困と人権

第13回：堀井 浩：エネルギー問題とガバナンス

第14回：福渡 潔（株式会社損害保険ジャパン CSR・環境推進室課長）＝持続可能な発展と企業経営 <演習>

第15回：結論（天児、関）

教科書

特に指定なし。

参考文献

第1回の時に、全体の参考文献の資料配布予定。

評価方法

出席数とレポート提出（特に関心の高かった3つ以上の回の講義内容をベースにテーマ設定をし、関連付けながらレポートにする）A4用紙4枚以上、もしくは試験による。

備考

特に指定なし。

関連 URL

必要な場合、第 1 回時に連絡。

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
儒教を読み解く	永富 青地	夏季	2	無その他

授業概要・授業の到達目標

本講義では、儒教の特質と機能を再検討しつつ、儒教は東アジアの歴史と文化に何をもたらしたか、現代において儒教はいかなる意味を持っているのかを考えていく。ゲストスピーカーとして中国、北京大学の高名な儒教研究者を複数招聘し、中国において展開している最新の儒教研究方法とその成果を講義してもらおう。それによって受講者は儒教研究の最先端を共有することになる。また、儒教の過去・現在・未来についても議論していきたい。なお、本科目は夏季集中講義とする。

ゲストスピーカーの北京大学の各先生は中国語で授業を行うため、日本語への通訳もつけることとする。

本授業は大学院生を対象とする。

授業計画

- [第1回]再度儒教を問う1
- [第2回]再度儒教を問う2
- [第3回]儒教の特質についての討論
- [第4回]中国における儒教の機能1
- [第5回]中国における儒教の機能2
- [第6回]中国における儒教の機能についての討論
- [第7回]東アジア思想史上における儒教の意味1
- [第8回]東アジア思想史上における儒教の意味2
- [第9回]東アジア思想史上における儒教の意味についての討論
- [第10回]儒教研究はいかにあるべきか1
- [第11回]儒教研究はいかにあるべきか2
- [第12回]儒教研究はいかにあるべきかについての討論
- [第13回]現代における儒教1
- [第14回]現代における儒教2
- [第15回]現代における儒教についての討論

教科書

特に指定しない。

参考文献

随時指示する。

評価方法

レポートと平常点。

備考

オリエンテーション：4月9日（金）12:20-12:50（予定）

授業日程：8月2日（月）-6日（金）（1日3コマ×5日間）

授業時間：第1時限は13時から、第2時限は14時45分から 第3時限は16時30分から

教室：22号館8階の会議室（本部キャンパス、道路をはさんで中央図書館のはすむかいの黄色いビル）

8月2日(月) 第1時限-第3時限(13:00-18:00)
8月3日(火) 第1時限-第3時限(13:00-18:00)
8月4日(水) 第1時限-第3時限(13:00-18:00)
8月5日(木) 第1時限-第3時限(13:00-18:00)
8月6日(金) 第1時限-第3時限(13:00-18:00) 3時限は懇親会

変更の可能性があるため、詳細は Course N@vi のお知らせを随時参照のこと

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
中国研究の最前線	周 程、劉 傑	前期	2	木 5 時限

授業概要・授業の到達目標

この講義では、現在の中国研究で話題になっている事柄を論議する。本講義では、北京大学をはじめとする中国の有力大学からゲストスピーカーを招へいし、最先端の中国研究についての報告を行うことも予定する。講義使用言語は日本語と中国語とする。中国語での講義については通訳が付くので、中国の思想、文化、環境、社会などの問題に関心を持つ大学院生なら誰でも受講可能である。

授業計画

未定

教科書

参考文献

評価方法

研究発表、授業・討議への参加度、レポート等を総合的に判断する。

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
地域研究としての台湾	梅森 直之、浅古 弘、江正殷、春山 明哲	前期	2	火2時限

授業概要・授業の到達目標

現在の台湾を、どのように理解すればよいか。また、これからの台湾の行方はいかなるものか。台湾を的確に捉えるには、どうすればよいのだろうか。本講義では、台湾を様々な角度から検討し、地域研究としての台湾の可能性を考える。また、こうした新しい台湾研究のあり方を模索することによって、既存の比較政治学、比較法学、比較歴史研究、東アジア研究に関しても、新たな視点を提供したい。

本講義は、オムニバス形式の講義であり、政治学、歴史学、法学、地域研究を専門とする、複数の教員が担当する。それぞれ専門分野から台湾研究の現状、可能性等について、受講生とともに文献・資料等を通じて検討し議論を行う。また、学外で活躍する研究者の招聘も積極的に行い、最先端の台湾研究と接触する機会を提供する。

授業計画

- ・本講義は、複数の教員によるオムニバス形式の講義である。
- ・教員は原則としてすべての講義に出席し、議論に参加する。
- ・主なテーマは下記の通り。ただし、内容や順番に関しては変更の可能性がある。
- ・また、何義麟氏（国立台北教育大学）がゲスト・スピーカーとして参加する。

[第1回] イントロダクション：台湾研究のおもしろさ

[第2回] 日本における台湾研究の歴史

[第3回] 台湾研究最前線1：岡松文書をめぐって

[第4回] 台湾研究最前線2：裁判史料をめぐって

[第5回] 台湾研究最前線3：2.28事件

[第6回] 台湾研究最前線4：多文化主義と多言語主義1

[第7回] 台湾研究最前線5：多文化主義と多言語主義2

[第8回] 台湾統治の開始1：日清戦争から征服戦争へ

[第9回] 台湾統治の開始2：後藤新平とその統治1

[第10回] 台湾統治の開始3：後藤新平とその統治2

[第11回] 台湾統治の展開1：矢内原忠雄とその時代

[第12回] 台湾統治の展開2：抗日運動の諸相

[第13回] 台湾統治の展開3：霧社事件

[第14回] 脱植民地への展望

[第15回] レビュー

教科書

講義中に指示する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

研究発表、授業・討議への参加度、レポート等を総合的に判断する。

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
日中関係の構造分析	徐 顕芬	後期	2	木 3時限

授業概要・授業の到達目標

本講義は、現代の日中関係を構造的に理解することを目的に設定する。この分野の基本的文献を読み、ディスカッションを行う。具体的には、第1に、日中両国間の相互作用のダイナミクスを長いスパンで把握する。第2に、日中関係をめぐる国際環境、特に日・米・中三ヶ国関係の変遷を考察する。そして第3に、日中関係をめぐる日中それぞれの国内政治、政策決定を検討する。特に政策決定アクター（組織及び人物）を整理し、「世代交替」の意味合いを分析する。

講義の進め方については、講師による講義形式（最初の15分間程度）と、履修者による文献の内容報告・発表というゼミナール形式を併用して実施する。

期末に履修者全員のレポート集『日中関係の構造分析』2010年度号（仮題）を作成する予定。

授業計画

未定

教科書

参考文献

評価方法

成績の評価は、授業での報告・ディスカッションへの貢献度と、期末レポートに基づく。

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
日本列島の日常史（前編）	新川 登亀男	前期	2	金 2 時限

授業概要・授業の到達目標

日本列島を対象とした歴史研究には長い蓄積があり、多くの成果が生まれている。しかし、かかえている課題も多い。そこで、これらのことを整理しつつ、21世紀の歴史研究と歴史理解のあり方について考えてみたい。なかでも、列島の古代史に生きた人々の論理や日常性および感性をどのように掘り起こし、あるいは取り戻して、再構成し、いきいきとした歴史記述を残していくには、どうしたらよいか。当たり前前の課題なのだが、これこそが歴史に取り組む本道ではなかろうか。そして、もっとも忘れがちで、かつ難しい課題である。

ここでは、これに取り組む手掛かりとして、高取正男の著書『神道の成立』（平凡社）を輪読し、自由に議論したい。著者は既に故人であるが、本書は歴史学・民俗学・宗教学などを総動員して、古代列島人の論理と心性を活写してみせた名著として語り継がれている。

授業参加者については、専門専攻を問わない。むしろ、歴史一般に関心を抱く各研究科の各専攻の人々に期待したい。そして、参加者それぞれ分野（方法）とテキストの方法とを突き合わせながら、創造的に考えていきたい。同時に、日本列島史のとらえ方を学び、それを各自の専門専攻のなかに取り入れて活かしてもらうことを目標としている。

授業計画

- [第1回] オリエンテーション（進行計画の説明、意見交換）
- [第2回] 高取正男に関する説明と確認
- [第3回] 参加者の問題意識と課題の報告・議論1
- [第4回] 参加者の問題意識と課題の報告・議論2
- [第5回] 参加者の問題意識と課題の報告・議論3
- [第6回] 『神道の成立』（以下、テキストと略称）輪読1（「本来的な世俗的宗教」1）
- [第7回] テキスト輪読2（「本来的な世俗的宗教」2）
- [第8回] テキスト輪読3（「神仏隔離の論拠」1）
- [第9回] テキスト輪読4（「神仏隔離の論拠」2）
- [第10回] テキスト輪読5（「神道の自覚過程」1）
- [第11回] テキスト輪読6（「神道の自覚過程」2）
- [第12回] テキスト輪読7（「浄穢と吉凶」1）
- [第13回] テキスト輪読8（「浄穢と吉凶」2）
- [第14回] テキスト輪読9（「女性司祭」）
- [第15回] 総括と成果確認

教科書

高取正男『神道の成立』（平凡社ライブラリーほか）

参考文献

高取正男『民間信仰史の研究』（法蔵館）

高取正男『日本的思考の原型』（平凡社ライブラリーなど）

評価方法

平常点80%、レポート20%

備考

専門の枠を超えて飛翔し、そして、専門に立ち帰るダイナミズムを共有したい。

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
日本列島の日常史(後編)	海老澤 衷	後期	2	火3時限

授業概要・授業の到達目標

政治史や経済史に収斂されない日常的に営まれる歴史の書として、ここでは網野善彦氏の著作を取り上げたい。1970年代から2000年代初頭にかけて、日本の歴史学界に多大な影響を及ぼした氏の業績は、網野史学と呼ばれ、『網野善彦著作集』19巻にまとめられている。このなかで、歴史研究者のみならず、一般の読者にも広く読まれた『無縁・公界・楽/日本中世における自由と平和』(1978年、平凡社)を取り上げたい。豊富な史料が載せられており、厳密な史料読解を行いながら、網野史学の特質を探っていく。この書には歴史研究者から多くの批判が寄せられ、それに網野氏が反論して熱い論争が交わされた。その過程を学ぶことができるのも本書を取り上げた理由である。講読のテキストとしては、平凡社ライブラリーの『[増補]無縁・公界・楽 日本中世の自由と平和』を用いる。

授業計画

- [第1回] オリエンテーション 本授業の進め方について
- [第2回] 「エンガチョ」・「江戸時代の縁切寺」について
- [第3回] 「若狭の駆け込み寺 万徳寺の寺法」について
- [第4回] 「周防の「無縁所」」について
- [第5回] 「京の「無縁所」」について
- [第6回] 「無縁所と氏寺」について
- [第7回] 「公界所と公界者」について
- [第8回] 「自治都市」について
- [第9回] 「一揆と惣」について
- [第10回] 「十楽の津と楽市楽座」について
- [第11回] 「無縁・公界・楽」について
- [第12回] 「山林」について
- [第13回] 「市と宿」について
- [第14回] 「墓所と禅律僧・時衆」について
- [第15回] まとめ

教科書

平凡社ライブラリー150『[増補]無縁・公界・楽 日本中世の自由と平和』(平凡社、1996年)

参考文献

『網野善彦著作集』全19巻(岩波書店)

評価方法

出席状況、課題・提出物等による。

備考

網野氏を批判した論考についても十分検討を加えたい。

関連 URL

<http://www.f.waseda.jp/ebisawa/ebisawa/index.html> (海老澤衷研究室)

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html> (東京大学史料編纂所)

<http://www.rekihaku.ac.jp/> (国立歴史民俗博物館)

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
信仰と思想(前編)	永富 青地	前期	2	月3時限

授業概要・授業の到達目標

中国明代、そして日本の江戸時代において大きな影響力を有していた陽明学は、決して宗教ではない。しかしながら、陽明およびその弟子たちが共有していた「良知」への強烈な確信は、確かに信仰と呼ぶにふさわしいものであろう。また、それは中国思想のバックボーンである性善説の、一つの頂点なのである。

本演習では、陽明の語録として中国及び江戸期日本において広く読まれた伝習録を読むことにより、陽明学の精髓を探っていきたい。

授業計画

- [第1回] 徐愛との出会い
- [第2回] 朱子学との決別
- [第3回] 上巻における徐愛以外の弟子との対話 1
- [第4回] 上巻における徐愛以外の弟子との対話 2
- [第5回] 上巻における徐愛以外の弟子との対話 3
- [第6回] 強敵との対決 中巻
- [第7回] 抜本塞源論 1
- [第8回] 抜本塞源論 2
- [第9回] 抜本塞源論 3
- [第10回] 良知とは何か 下巻
- [第11回] 良知とは何か 2
- [第12回] 良知とは何か 3
- [第13回] 無善無悪説の衝撃 1
- [第14回] 無善無悪説の衝撃 2
- [第15回] 無善無悪説の衝撃 3

教科書

和刻本伝習録のコピーを配布する

参考文献

教場で指示する

評価方法

授業中の応答を中心とするため、予習は欠かせない

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
信仰と思想(後編)	森 由利亜	後期	2	金7時限

授業概要・授業の到達目標

授業概要

この授業では、現在世界の道教学を牽引する最も重要な学者の一人である John Lagerway によって著され、すでに研究上の古典としての地位を獲得している著作、Taoist Ritual in Chinese Society and History (Macmillan Publishing Company, New York; Collier Macmillan Publishers, London, 1987)を通読します。毎回一章をあつかい、そこで扱われている内容の大綱を把握し、最終的には本書を通覧し、その全体的な構想や主題についての考察を行います。

各授業ではテキスト自体を読むことはあまりありません。むしろ、予習してきていただいた内容をまとめてゆくことが教場での主たる作業内容になるでしょう。章ごとに担当者を割り当ててゆく予定です。授業を効率化するために簡単なレジュメを用意してもらいます。

到達目標

ラウエイの道教学の基本的な観点を習得するとともに、より一般的には道教に関する知識を英語でどのように表現するかを学ぶ機会となるはずです。また、学術的な英語を速読する練習にもなります。

授業計画

[第1回] Introduction: What is Taoism

[第2回] Ch.1

[第3回] Ch.2

[第4回] Ch.3

[第5回] Ch.4

[第6回] Ch.5

[第7回] Ch.6

[第8回] Ch.7

[第9回] Ch.8

[第10回] Ch.9

[第11回] Ch.10

[第12回] Ch.11

[第13回] Ch.12

[第14回] Ch.13

[第15回] Ch. 14-Conclusion

教科書

Lagerway, John. Taoist Ritual in Chinese Society and History, Macmillan Publishing Company, New York; Collier Macmillan Publishers, London, 1987.

現在では入手困難な書であるため、必要な部分をコピーして配布します。

参考文献

特になし。

評価方法

出席と平常点を勘案します。平常点としては、毎回予習を行って臨んでいるかどうか、正確な読解ができているかどうか

かが特に注目されます。

備考

特になし。

関連 URL

特になし。

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
民族と人類(前編)	岡内 三真	前期	2	金 4時限

授業概要・授業の到達目標

『天工開物』を読み、実験を試み技術の歴史を確かめて、現代技術との比較を試みる。

宋 應星『天工開物』は、中国明代の1637年に刊行された技術書である。藪内 清の訳注をテキストにして、万物の生産と加工技術を明らかにし、現代技術との関連を探る。

このため考古学資料、民族資料、文献資料などを参考にし、生産、加工について実験を試み、受講者自身が工夫しながら当時の技術を復原する。

『天工開物』のさまざまな技術の中から一つを選んで読解する。その技術をあとづけ現代にいかに関係するかをたどり、現代社会との関係を明らかにすることを到達目標とする。

授業計画

[第1回] テキスト『天工開物』の紹介、授業計画の説明

[第2回] テキストの読解と実験準備

[第3回] テキストの読解と実験の予測

[第4回] 考古資料、民族資料、文献史料の読解と実験

[第5回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第6回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第7回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第8回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第9回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第10回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第11回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第12回] 各種資料、テキストの読解と実験

[第13回] 読解、実験結果など研究成果の取りまとめ

[第14回] 研究成果のパワーポイントによる発表

[第15回] 研究成果の報告書作成

教科書

宋 應星撰、藪内 清訳注1969『天工開物』東洋文庫130 平凡社

参考文献

評価方法

出欠席40%、実験経過30%、研究発表10%、研究報告書20%

備考

関連URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
民族と人類(後編)	李 成市	後期	2	火2時限

授業概要・授業の到達目標

今西龍(1875-1932)は、京都帝国大学教授・京城帝国大学教授として、朝鮮前近代史の研究に多くの業績を残している。主著に『新羅史研究』『百済史研究』『朝鮮古史の研究』『朝鮮史の栞』『高麗及李朝史研究』などがあるが、それらはすべて没後に刊行された。『高麗及李朝史研究』(1974年)を除いて、1934年から1937年までに近沢書店(京城)から刊行され、その後、1970年に国書刊行会から復刻版が刊行されている。

とりわけ朝鮮古代史研究の開拓者として、文献学、考古学(現地調査)を駆使した研究は、今も古典としての輝きを失わない。入手は困難であるが、まずは『新羅史研究』所載の論文から、特色ある研究を選んで読んでゆきたい。

これまで植民地統治下でなされた今西の研究については、韓国や北朝鮮の学界では批判的な見解も少なくなかったが、近年、韓国において『新羅史研究』が翻訳刊行されたように、その学問的価値は今でも失われることはない。

当時の研究状況と全く異なるのは、考古学的な成果と、木簡や石碑など出土文字資料の発見であるが、そうした変化にもかかわらず学問的な価値を失わないのは、その研究方法に認めることができる。歴史研究がなされた時代状況という文脈を意識しながら、真の意味での史学史的な位置づけができるような読み込みを心がけたい。

授業計画

- [第1回] 解題と文献の選定
- [第2回] 文献の講読 1
- [第3回] 文献の講読 2
- [第4回] 文献の講読 3
- [第5回] 文献の講読 4
- [第6回] 文献の講読 5
- [第7回] 文献の講読 6
- [第8回] 文献の講読 7
- [第9回] 文献の講読 8
- [第10回] 文献の講読 9
- [第11回] 文献の講読 10
- [第12回] 文献の講読 11
- [第13回] 文献の講読 12
- [第14回] 史学史から見た今西龍の検討
- [第15回] 講義の総括

教科書

参考文献

評価方法

授業の参加度

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
EU 機構と政策過程研究	福田 耕治	前期	2	火 2 時限

授業概要・授業の到達目標

現代行政の活動は、もはや「国民国家」の枠内にとどまらない。現代国家の行政活動が、なぜ、さまざまな領域で国際化、グローバル化を余儀なくされ、国際機構行政を発達させ、NGO や企業、個人との協力関係をも強化していかざるを得なくなったのか、国際行政と国内行政の制度的諸関係はどのように発展してきたのか、規制行政の国際化や国際的調整をめぐる諸問題の論点は何か、について考える。

2010 年度は、EU 機構と政策過程研究を中心とし、欧州ガバナンスの機能と構造を取りあげる。リスボン条約は、今後の EU 統合の方向性、行方を考える上で重要な機構の枠組み、政策過程などを規定する EU の新たな基本条約であるといえる。本演習では、リスボン条約を単に概観するだけでなく、EU 主要機関の特質や機構改革の方向性、その意味あるいは、EU における多様なガバナンス方式の比較を通じて、リスボン条約の意義と問題点を理論的かつ実証的に検討を行い、欧州統合の全体像を俯瞰し、EU を体系的に捉えられるよう政治経済学や国際関係論の理論にも配慮するとともに、それぞれの学問分野における専門的研究へと誘えるよう、研究の方法論をも含めた丁寧な指導を行う。

授業計画

- [第 1 回] ガイダンスー国際行政とは何か。
- [第 2 回] EU の国際行政と加盟国行政の関係、第 1 次資料、EU 公式資料
- [第 3 回] 欧州ガバナンスの構造と EU 諸機関
- [第 4 回] EU 法秩序・リスボン条約の構造と機能
- [第 5 回] 欧州理事会と EU 閣僚理事会
- [第 6 回] 欧州議会の機能と構造、
- [第 7 回] 欧州議会と国際政党、直接選挙の現状分析
- [第 8 回] 欧州委員会の機能と構造ーリスボン条約による改革
- [第 9 回] 欧州委員会事務局の構造と国際公務員人事行政
- [第 10 回] EU 政策過程の構造と利益集団、NGO の機能
- [第 11 回] EU 政策形成・決定過程と加盟国統治機構の関係・共同体方式ガバナンス
- [第 12 回] EU 政策実施過程と加盟国行政機関
- [第 13 回] EU の政策評価制度と NPM 改革
- [第 14 回] EU 財政構造と財務行政管理
- [第 15 回] EU・欧州ガバナンスの課題

教科書

教科書・参考書：

- 福田耕治『国際行政 国際公益と国際公共政策』有斐閣、2003 年。
- 福田耕治編著『EU・欧州統合研究』成文堂、2009 年。

参考文献

- EU に関する最新の英語研究論文を中心に取り上げ、検討、議論する。
- 福田耕治編『EU とグローバル・ガバナンス』早稲田大学出版部、2009 年。

評価方法

授業の際の報告、議論、質疑応答、レポートによる。

備考

関連 URL

関連 URL <http://jpn.cec.eu.int> <http://europa.eu.int/>

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
EU 国際公共政策の研究	福田 耕治	後期	2	火 2 時限

授業概要・授業の到達目標

現代世界には、解決を必要としているさまざまな問題がある。しかし、国家レベルの公共政策だけでは問題解決が困難か、非効率である場合が少なくない。そこで本講義では、グローバル化に伴う地球環境の破壊、途上国の開発に伴う貧困層の拡大、人権の抑圧、あるいは国境を越える組織犯罪や感染症の拡大など、地球規模の諸問題を解決するための国際公共政策、あるいは各国の公共政策や規制を調整し、整合化させるための国際的規範、措置のモデルとして、EUの国際公共政策（環境、開発、人権、人道、社会保障、公共空間、共通外交・安全保障政策など）を事例として取り上げる。文理融合・学際的な視点から考察し、それぞれの政策領域の特色や他の公共政策との関係、今後の課題等についてエビデンスに基づいて議論する。

授業計画

[第 1 回]EU 環境エネルギー政策

[第 2 回]EU 科学技術政策、イノベーション政策

[第 3 回]EU 共通農業政策

[第 4 回]EU 人の自由移動政策

[第 5 回]EU 財政・金融政策

[第 6 回]EU 地域開発・空間政策

[第 7 回]EU 社会政策・社会保障政策

[第 8 回]EU 保健・医療政策、

[第 9 回]EU 雇用・労働政策

[第 10 回]EU 教育・文化・言語政策

[第 11 回]EU 移民・難民政策

[第 12 回]EU: 通商政策、中小企業政策

[第 13 回]EU 開発途上国政策

[第 14 回]EU 外交・安全保障・防衛政策

[第 15 回]EU 人権・人道政策

をもふまえ、EU 国際公共政策と加盟国の国内公共政策との間の関係、

について討論を通じて理解を深める

教科書

福田耕治編『EU・欧州統合研究』 成文堂、2009年および
International Review of Administrative Sciences, Journal of Common Market Studies, International Organization, Journal of Public Policy, など、主として最新の学術誌所収の論文を選んで教材とする。

参考文献

福田耕治編『EUとグローバル・ガバナンス』 早稲田大学出版部、2009年
福田耕治他『EU/国境を越える医療専門職と患者の自由移動』 文眞堂、2009年

評価方法

授業時の報告と討議、レポートを踏まえて総合的に評価する

備考

2010年度大学院共通科目講義要項.doc

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
欧州統合理論の研究	中村 英俊	前期	2	火3時限

授業概要・授業の到達目標

いくつかの国際地域において、国民国家を超える（＝狭義の統合）現象ないしは国境を横断する（＝広義の統合）現象が観察できる。世界において、部分的ではあるが「戦争の不在」という現象を観察することもできる。

本講義では、ヨーロッパ地域における政治統合体としてのEUの事例を中心に、様々な地域統合現象の理論的考察・分析を試みたい。次のようなテーマを取り上げる予定。

1. 世界における「地域」(regions) 地域統合論と地域研究の異同性
2. 地域統合の理論と概念
 - (1) E・ハースの新機能主義
 - (2) K・ドイッチュの交流主義
 - (3) 比較地域統合論 J・ナイの『部分的平和』
3. ヨーロッパ統合の歴史と現状
 - (1) EUと超国家的制度
 - (2) 安全保障共同体としてのEU
 - (3) 民生パワーとしてのEU
4. 国際統合と国民統合 EUとUSAの「連邦制」
5. 地域機構と「戦争の不在」 APEC, ARF, ASEAN+3, SAARC, NAFTA, OAS, GCC, AU, EAC, etc.

授業計画

- [第1回] オリエンテーション
- [第2回] 地域統合論・欧州統合理論の概説
- [第3回] K・ドイッチュの交流主義アプローチ
- [第4回] E・ハースの新機能主義アプローチ
- [第5回] P・シュミッターの新機能主義と「スピル・オーバー」仮説
- [第6回] S・ホフマンによる統合論批判
- [第7回] J・ナイの比較地域統合論：1970年代
- [第8回] W・ウォーレスの「主権の共有」論
- [第9回] A・モラブチックの制度主義
- [第10回] W・マトリイの比較地域統合論：1990年代
- [第11回] E・アドラーとM・パーネットの「安全保障共同体」論
- [第12回] 非ヨーロッパ地域への「安全保障共同体」概念の適用
- [第13回] 「民生パワー」としてのEU
- [第14回] 国際政治の中のEU
- [第15回] 総括

上記テーマについて、リーディング・リストに基づく重要文献を読む。そして、ゼミ形式の講義では、ヨーロッパ統合の理論・現実について議論し、さらに比較研究の観点から、「アジア地域統合」の可能性と限界（あるいは「東アジア共同体」創設の条件）などについての議論も重ねたい。

教科書

参考文献

- ・鴨武彦 (1985) 『国際統合理論の研究』 (早稲田大学出版部)
- ・Adler, Emanuel, and Barnett, Michael (eds.) (1998) Security Communities (Cambridge: Cambridge University Press).
- ・Deutsch, Karl W., et al. (1957) Political Community and the North Atlantic Area: International Organization in the light of historical experience (Princeton University Press, 1957; reprinted, Westport, CT: Greenwood Press, 1969).
- ・Fawcett, Louise, and Hurrell, Andrew (eds.) (1995) Regionalism in World Politics (Oxford University Press)
[菅英輝・栗栖薫子監訳 『地域主義と国際秩序』九州大学出版会、1999年]
- ・Haas, Ernst B. (1958/1968) The Uniting of Europe: Political, Social, and Economic Forces, 1950-1957 (Stanford University Press, Stanford, 1958; reissued with a new Preface, 1968).
- ・Mattli, Walter (1999) The Logic of Regional Integration: Europe and Beyond (Cambridge University Press).
- ・Nye, Joseph S. (1971/1987) Peace in Parts: Integration and Conflict in Regional Organization (Boston: Little, Brown and Company, 1971; reissued with a new Preface by University Press of America, 1987).

評価方法

授業での報告 (レジユメの作成を含む)、議論 (ディスカッション) への貢献度、レポートを総合的に評価する。

備考

地域統合論 (ジャーナリズムコース) との合併授業。

欧州統合理論の研究 (オープン教育センター設置「大学院 EU・欧州統合研究テーマカレッジ」科目) との合併授業。

授業運営に際しては、Course N@vi の機能を適宜利用する。

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>) で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
Contemporary Issues in European Integration	中村 英俊	夏季	2	無その他

授業概要・授業の到達目標

This course will provide an opportunity for Waseda graduate students to take an intensive course on European integration studies which is usually provided at a European university, such as the University of Oxford, the Free University of Berlin, and so on. EU Institute in Japan at Waseda University (EUIJ-Waseda) will invite one scholar from a European university for the summer intensive course.

In 2009, Dr Katrin Auel, DAAD Lecturer and Fellow in Politics, Department of Politics and International Relations, the University of Oxford, will come to Waseda for one week: the week commencing 24th August. Dr Auel will provide us with four substantial days of teaching, according to the following four major subjects:

- (1) Theories of Integration;
- (2) EU institutions and decision-making;
- (3) Enlargement; and
- (4) Representation.

On each day, she will give a lecture, followed by a discussion session in a seminar format. She will send us the reading lists and the questions/titles for assignments in late April. Students are required to prepare intensively for the summer course and to write at least four essays. This requirement will enable you to understand the four lectures given by Dr Auel, and to participate actively in the discussion of the four subjects with your own prepared essays.

Professor Nakamura will co-ordinate the course as a whole, and will provide two preparatory classes. In 2009, these will be carried out on 25th April and 1st July. He will utilize the Course N@vi education system, to enable any student to keep abreast of the development of this course. The official language for this course is English, but any student can communicate with Professor Nakamura in Japanese on the fringe of this course.

授業計画

[0] 25th April: preparatory class (A) by Prof. Hidetoshi Nakamura

[0] 1st July: preparatory class (B)

Summer Intensive Course by Dr. Katrin Auel in the week commencing 24th August

Day 1 (24th or 25th August): Theories of Integration

[1] Lecture (1) by Dr Auel

[2] Discussion (1-1)

[3] Discussion (1-2)

[4] Discussion (1-3)

Day 2 (25th or 26th August): EU institutions and decision-making

[5] Lecture (2) by Dr Auel

[6] Discussion (2-1)

[7] Discussion (2-2)

Day 3 (26th or 27th August): Enlargement

[8] Lecture (3) by Dr Auel

[9] Discussion (3-1)

[10] Discussion (3-2)

[11] Discussion (3-3)

Day 4 (27th or 28th August): Representation

[12] Lecture (4) by Dr Auel

[13] Discussion (4-1)

[14] Discussion (4-2)

[15] Conclusion by Dr Auel and Prof. Nakamura

教科書

The reading lists and the questions/titles for assignments will be provided by Dr Katrin Auel in late April.

参考文献

評価方法

attendance, four essays, discussion

備考

You are able to send any prior question to Hidetoshi Nakamura through e-mail either in English or in Japanese.

関連 URL

For Dr Katrin Auel's profile, see:

<http://www.politics.ox.ac.uk/about/staff/staff.asp?action=show&person=171&special=>

For EU Institute in Japan at Waseda University (EUIJ-Waseda), see:

<http://www.euij-waseda.jp/>

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
The Politics and International Relations of the European Union	ベーコン ポール・マルティン	後期	2	木2時限

授業概要・授業の到達目標

This course offers students a comprehensive guide to twentieth century European political history. It explains the circumstances in which the project of European co-operation began. Students will gain a clear understanding of the main institutions, policies and decision-making processes of the contemporary EU, with a particular focus on EU foreign policy.

The class offers a fair and honest appraisal of the political divisions that exist between influential members of the EU, and a balanced assessment of the strengths and weaknesses of the European approach to international relations.

There will be several concrete case studies of key events in international politics that have helped to shape the contemporary EU, and which have served to reveal the EU's strengths and weaknesses. These case studies include Rwanda, Bosnia/Srebrenica, Kosovo, the Iraq War, and the question of EU enlargement.

授業計画

- [第1回] Introduction/The Evolution of European Political Institutions
- [第2回] Origins of WWI
- [第3回] Origins of WWII
- [第4回] Theories of European Integration
- [第5回] The European Commission
- [第6回] The Council of Ministers/European Council
- [第7回] The European Parliament
- [第8回] The EU and Human Rights
- [第9回] EU Enlargement
- [第10回] EU Enlargement Case Study: Turkey
- [第11回] The EU and Rwanda
- [第12回] The EU and Bosnia/Srebrenica
- [第13回] The EU, NATO and Kosovo
- [第14回] The EU, the US and the Iraq War
- [第15回] Overview/Conclusions

教科書

Michelle Cini, European Union Politics, (Second edition), Oxford University Press, 2007.

参考文献

A comprehensive list of readings will be provided in the first class.

評価方法

Class presentations, class comprehension exercises, two essays, class participation.

備考

This class is taught entirely in English.

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
The Political System of the EU	舒 旻	後期	2	水 2 時限

授業概要・授業の到達目標

Has the European Union (EU) turned into a regional government without statehood? How to decode the politics of EU policy-making beyond classic integration theories? What are the roles of conventional political actors (such as voters, parties, and interest groups) in a multi-levelled governance structure? This course intends to provide students with the basic analytical tools to answer these important questions about the EU.

In addition to Hix's acclaimed textbook - 'The Political System of the European Union' (2005, 2nd edition, Palgrave), we are going to read several key articles in comparative politics literature of the EU.

The course is divided into three parts: (i) decoding the institutional structure of the EU, (ii) tracing the actors in EU politics, and (iii) linking structure and agency in EU policy-making. Following a seminar format, each student is required to conduct in-class presentation based on pre-assigned reading materials.

授業計画

- [第 1 回] Guidance and Introduction
- [第 2 回] The EU's Institutional Context
- [第 3 回] Executive Politics in the EU
- [第 4 回] Legislative Politics in the EU
- [第 5 回] Judicial Politics in the EU
- [第 6 回] Actor I: The Member States
- [第 7 回] Actor II: The Public
- [第 8 回] Actor III: Domestic and European Political Parties
- [第 9 回] Actor IV: Interest Groups and Think Tanks
- [第 10 回] Case I: The Treaty-Making Process
- [第 11 回] Case II: The Politics of EU Budget
- [第 12 回] Case III: The Economic and Monetary Union
- [第 13 回] Case IV: The Political Economy of EU's External Relations
- [第 14 回] Case V: Referendums and European Integration
- [第 15 回] Summary and Evaluation

教科書

Hix, Simon (2005) The Political System of the European Union, 2nd edition, London: Palgrave.

Marks, Gary and Steenbergen, Marco R. (2004) European Integration and Political Conflict, Cambridge: Cambridge University Press.

参考文献

Gabel, Matthew (1998) Interests and Integration: Market Liberalization, Public Opinion, and European Union, Ann Arbor: University of Michigan Press.

Hix, Simon; Noury, Abdul and Roland, Gerard (2007) Domestic Politics in the European Parliament, Cambridge:

Cambridge University Press.

Hug, Simon (2002) *Voices of Europe: Citizens, Referendums, and European Integration*, Lanham: Rowman & Littlefield Publishers.

Moser, Peter; Schneider, Gerald and Kirchgassner, Gebhard (eds.) (2000) *Decision Rules in the European Union: A Rational Choice Perspective*, New York : St. Martin's Press.

Thomson, Robert; Stokman, Frans N.; Achen, Christopher and König, Thomas (eds.) (2006) *The European Union Decides*, Cambridge: Cambridge University Press.

Van der Eijk, Cees and Franklin, Mark (1996) *Choosing Europe? European Electorate and National Politics in the Face of Union*, Ann Arbor: University of Michigan Press.

評価方法

Attendance (20%)、Class Presentation (35%)、Term Essay (45%)

備考

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
現代演劇特論(入門)	秋葉 裕一	前期	2	金 3時限

授業概要・授業の到達目標

欧米の演劇の影響下に成立した日本の近現代演劇の運動には、日本および日本人の在り様に対する根本的な懐疑、批判が存在する。ベルトルト・ブレヒトの日本における受容もその一例と言えるだろう。この演習では、ブレヒトの生涯と戯曲作品に触れたのち、日本における具体的な受容を井上ひさしの例に跡づけて見る。

ブレヒトの問題意識は現代にも及び、その関心は幅広い。演劇や文学の研究者以外の受講者も歓迎する。映像情報を活用することが頻繁にある。授業時間をオーバーすることが少なくない。この点の了解を願う。

当学科目担当者は演劇博物館を拠点とする21世紀COE事業において、また後継のグローバルCOE事業において、「ベルトルト・ブレヒト研究とその日本における受容」を課題として研究を重ねてきた。問題意識と研究成果を演習の中で積極的に紹介したい。

授業計画

- [第1回] ガイダンス。ベルトルト・ブレヒトの生涯と作品について。
- [第2回] 戯曲『コーカサスの白墨の輪』前半を読み、映像資料を見る。
- [第3回] 戯曲『コーカサスの白墨の輪』後半を読み、映像資料を見る。
- [第4回] 戯曲『コーカサスの白墨の輪』の考察と分析。
- [第5回] 戯曲『肝っ玉おっ母とその子供たち』前半を読み、映像資料を見る。
- [第6回] 戯曲『肝っ玉おっ母とその子供たち』後半を読み、映像資料を見る。
- [第7回] 戯曲『肝っ玉おっ母とその子供たち』の考察と分析。
- [第8回] 詩集『家庭用説教集』を読む。
- [第9回] 詩集『家庭用説教集』の考察と分析。
- [第10回] 井上ひさしの生い立ちと作品について。
- [第11回] 戯曲『藪原検校』を読む。
- [第12回] 戯曲『藪原検校』の映像資料を見る。
- [第13回] 戯曲『藪原検校』の考察と分析。
- [第14回] 予告された課題について、教場でレポートを作成する。
- [第15回] レポートについての評価と、評価基準の解説。

教科書

必要なテキストは授業担当者の側で準備する。

参考文献

評価方法

出席、授業への参加、レポートをもとに評価を行う。

備考

関連URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
現代演劇特論(発展)	秋葉 裕一	後期	2	金 3時限

授業概要・授業の到達目標

欧米の演劇の影響下に成立した日本の近現代演劇の運動には、日本および日本人を異化して眺める立場なり、見方が存在する。ブレヒトと日本におけるブレヒト受容もその一例と言えるだろう。前期の「現代演劇特論」(入門)では、ベルトルト・ブレヒトの生涯と作品、そして井上ひさしを例に日本におけるブレヒト受容を扱った。後期は、違った角度から、ブレヒトの作品を眺め、また井上ひさしの受容例を考察する。

ブレヒトは1898年に生れ、1956年に亡くなった。20世紀のいわば前半を生きた演劇人である。しかし、作品の持つメッセージは現代の21世紀をも射程に入れている。その現代性と多様性を探りたい。演劇や文学の研究者以外の受講も歓迎する。

授業計画

- [第1回] ガイダンス。ベルトルト・ブレヒトの生涯と作品について。
- [第2回] 『暦物語』中の小説『実験』『傷ついたソクラテス』を読む。
- [第3回] 『暦物語』中の小説『異端者の外套』『年寄りらしくない婆さん』を読む。
- [第4回] 『暦物語』中の詩を読む。
- [第5回] 『暦物語』中の詩を読む。
- [第6回] 戯曲『ガリレイの生涯』を読み、映像資料を見る。
- [第7回] 戯曲『ガリレイの生涯』を読み、映像資料を見る。
- [第8回] 戯曲『ガリレイの生涯』の考察と分析。
- [第9回] 井上ひさしの生い立ちと作品について。
- [第10回] 戯曲『頭痛肩こり樋口一葉』前半を読み、映像資料を見る。
- [第11回] 戯曲『頭痛肩こり樋口一葉』後半を読み、映像資料を見る。
- [第12回] 戯曲『きらめく星座』前半を読み、映像資料を見る。
- [第13回] 戯曲『きらめく星座』後半を読み、映像資料を見る。
- [第14回] 予告された課題について、教場でレポートを作成する。
- [第15回] レポートについての評価と、評価基準の解説。

教科書

必要なテキストは授業担当者の側で準備する。

参考文献

評価方法

出席、授業への参加、レポートをもとに評価を行う。

備考

関連URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
現代演劇と多文化主義(入門)	澤田 敬司	前期	2	金1時限

授業概要・授業の到達目標

本年度は、オーストラリア・ニュージーランド・カナダの多文化社会を構成する(1)「先住民」(2)「移民・難民」の自己表象、および他者表象を取り上げ、それに込められた政治性や伝統・文化、ハイブリディティについて分析を行う。テキストには演劇と映画を均等に取り上げ、両者メディアの政治的文脈の違いについても議論を喚起したい。

授業計画

[第1回]ガイダンス

[第2回]ポストコロニアル理論の検討

[第3回]ポストコロニアル理論の検討

[第4回]ポストコロニアル理論の検討

[第5回]発表

[第6回]作品の鑑賞と分析

[第7回]作品の鑑賞と分析

[第8回]作品の鑑賞と分析

[第9回]発表

[第10回]作品の鑑賞と分析

[第11回]作品の鑑賞と分析

[第12回]作品の鑑賞と分析

[第13回]作品の鑑賞と分析

[第14回]発表

[第15回]まとめ

日程は変更する可能性がある

教科書

教場で指示する。

参考文献

『演劇学のキーワード』(ペリかん社) 佐和田敬司『現代演劇と文化の混淆』(早稲田大学出版部)

評価方法

また、受講生の関心領域の作品も取り上げ、上記の議論との接点について考えながら、発表・討議を行う。

授業への参加、レポートを総合的に判断する。

備考

関連URL

<http://homepage2.nifty.com/wombat/>

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
現代演劇と多文化主義（発展）	澤田 敬司	後期	2	金 1時限

授業概要・授業の到達目標

本年度は、オーストラリア・ニュージーランド・カナダの多文化社会を構成する（１）「先住民」（２）「移民・難民」の自己表象、および他者表象を取り上げ、それに込められた政治性や伝統・文化、ハイブリディティについて分析を行う。テキストには演劇と映画を均等に取り上げ、両者メディアの政治的文脈の違いについても議論を喚起したい。

授業計画

[第 1 回]ガイダンス

[第 2 回]ポストコロニアル理論の検討

[第 3 回]ポストコロニアル理論の検討

[第 4 回]ポストコロニアル理論の検討

[第 5 回]発表

[第 6 回]作品の鑑賞と分析

[第 7 回]作品の鑑賞と分析

[第 8 回] 作品の鑑賞と分析

[第 9 回]発表

[第 10 回]作品の鑑賞と分析

[第 11 回]作品の鑑賞と分析

[第 12 回]作品の鑑賞と分析

[第 13 回]作品の鑑賞と分析

[第 14 回]発表

[第 15 回]まとめ

日程は変更する可能性がある

教科書

参考文献

『演劇学のキーワードズ』（ペリかん社） 佐和田敬司 『現代演劇と文化の混淆』（早稲田大学出版部）

評価方法

授業への参加、レポートを総合的に評価する。

備考

関連 URL

<http://homepage2.nifty.com/wombat/>

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
日本の伝統演劇論(入門)	三宅 晶子	前期	2	月4時限

授業概要・授業の到達目標

前年度に引き続き世阿弥自筆能本を取り上げる。

世阿弥は9本の自筆能本を残しており、その他に、臨模本1本、同時代の別筆本1本、計11本の能本が、室町前期のものとして現存している。世阿弥自筆能本の次に古い謡本は室町後期まで下るから、謡の資料としても格段に古いが、これらは後の時代の単なる謡本ではなく、演出まで記した能本の形を持っている。もちろん、国語学的にも大変貴重な資料であると同時に、世阿弥当時の能がどのように演じられていたかを知ることの出来る、第一級資料である。

世阿弥自筆能本を底本として、現存する主な謡本との校合、詞章の解説、出典調べ、演出資料の調査など、能の作品研究に欠かせない調査・研究法の基礎をマスターすることを目的とする。

能にのみ用いる狭い研究方法ではなく、広く伝統演劇すべてに応用可能な、オーソドックスな方法論である。

担当曲を決めて、発表形式とする。

参加人数によっては、各人一曲、あるいは複数の者で一曲となる。

授業計画

- [第1回] 『世阿弥自筆能本』概説・能の作品研究の方法概説
- [第2回] 担当曲決定、謡本の調査方法概説
- [第3回] 担当曲1 諸本校合・校訂本文作成
- [第4回] 担当曲1 注釈
- [第5回] 担当曲2 諸本校合・校訂本文作成
- [第7回] 担当曲2 注釈
- [第8回] 担当曲3 諸本校合・校訂本文作成
- [第9回] 担当曲3 注釈
- [第10回] 担当曲4 諸本校合・校訂本文作成
- [第11回] 担当曲4 注釈
- [第12回] 担当曲5 諸本校合・校訂本文作成
- [第13回] 担当曲5 注釈
- [第14回] 全体の見直し
- [第15回] まとめ

教科書

『世阿弥自筆能本集』(1997年、岩波書店刊)を使用するが、授業時に配布するコピーを代用することも可能。

参考文献

岩波日本思想大系『世阿弥禅竹』

岩波日本古典文学大系『謡曲集上』

評価方法

平常点・発表・レポートそれぞれ3分の1。

備考

関連URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
日本の伝統演劇論(発展)	三宅 晶子	後期	2	月4時限

授業概要・授業の到達目標

前期「日本の伝統演劇論(入門)」に続き、金春禅鳳自筆能本・謡本を取り上げる。

世阿弥自筆能本について書写年代が古い金春禅鳳自筆能本(富士山)と、謡本の中から、担当者が適当な能作品を選び、諸本校合、典拠、詞章、演出などについての調査・報告、参加者による討議を行う。

授業計画

- [第1回] 担当曲1 作品研究上 作詞作曲面など
- [第2回] 担当曲1 作品研究下 演出面など
- [第3回] 担当曲2 作品研究上
- [第4回] 担当曲2 作品研究下
- [第5回] 担当曲3 作品研究上
- [第6回] 担当曲3 作品研究下
- [第7回] 担当曲4 作品研究上
- [第8回] 担当曲4 作品研究下
- [第9回] 担当曲5 作品研究上
- [第10回] 担当曲5 作品研究下
- [第11回] 世阿弥自筆本の特徴
- [第12回] 金春禅鳳自筆能本の特徴
- [第13回] 金春禅鳳自筆謡本の特徴
- [第14回] 世阿弥と禅鳳の作品と能本・謡本
- [第15回] まとめ

教科書

『世阿弥自筆能本集』(1997年、岩波書店刊)を使用するが、授業時に配布するコピーを代用することも可能。

参考文献

岩波日本思想大系『世阿弥禅竹』

岩波日本古典文学大系『謡曲集上・下』

評価方法

平常点・発表・レポートそれぞれ3分の1。

備考

関連URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
日本映画と演劇(入門)	藤井 仁子	前期	2	木3時限

授業概要・授業の到達目標

演劇・舞台の伝統との関連で日本映画を論じた、英語または日本語の文献を輪読します。たんに両者の影響関係を扱うのではなく、異質な表象形式との出会い(または出会い損ない)に注目することで、「映画とは何か」という問いをさらに突き詰めて考えてみましょう。さしあたり映画学の専門的な論文を読みこなす能力の獲得を目指しますが、英語圏での日本映画研究の成果に接することで、自文化を他者の視点から再考する契機にもしてください。

具体的には、語り物の伝統を継承した無声映画期の弁士、溝口健二作品に登場する歌舞伎や新劇といったテーマを取り上げる予定ですが、詳しくは受講生と相談のうえ決定します。日本映画の場合と比較するために、必要に応じて外国映画にかんする文献を読むこともありえます。

後期の「日本映画と演劇(発展)」と続けて履修することで、いっそうの学習効果が期待されます。

授業計画

[第1回]ガイダンス, 資料配布, 発表順の決定など

[第2回]参考上映, 解説, 討議

[第3回]文献輪読と討議(1)

David Bordwell, *Figures Traced in Light: On Cinematic Staging* (Berkeley: University of California Press, 2005).

(予定)

[第4回]文献輪読と討議(2)

[第5回]文献輪読と討議(3)

[第6回]文献輪読と討議(4)

[第7回]文献輪読と討議(5)

[第8回]文献輪読と討議(6)

[第9回]文献輪読と討議(7)

[第10回]文献輪読と討議(8)

[第11回]文献輪読と討議(9)

[第12回]文献輪読と討議(10)

[第13回]文献輪読と討議(11)

[第14回]文献輪読と討議(12)

[第15回]全体のまとめ, 討議

教科書

プリントを配布します。

ただし、受講生の希望によっては開講後に特定の書籍をテキストとして購入してもらうかもしれません。

参考文献

適宜紹介しますが、以下はできるだけ早く各自で読んでおくべきでしょう。四方田犬彦『日本映画史100年』(集英社新書、756円)。

評価方法

出席を重視し(30%)、訳読の出来に議論での発言を加味して総合的に評価します。授業期間中に関連作品の上映が行なわれる場合など、適宜レポートの提出を求め、出来に応じて加点することも考えています。

備考

英文の読解力はもちろん高いに越したことはないものの、語学の授業ではないので、映画学に関心を持ち、かつそのための努力を惜しまぬすべての学生に開かれた授業とします。

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
日本映画と演劇(発展)	藤井 仁子	後期	2	木3時限

授業概要・授業の到達目標

演劇・舞台の伝統との関連で日本映画を論じた、英語または日本語の文献を輪読します。たんに両者の影響関係を扱うのではなく、異質な表象形式との出会い(または出会い損ない)に注目することで、「映画とは何か」という問いをさらに突き詰めて考えてみましょう。さしあたり映画学の専門的な論文を読みこなす能力の獲得を目指しますが、英語圏での日本映画研究の成果に接することで、自文化を他者の視点から再考する契機にもしてください。

具体的には、語り物の伝統を継承した無声映画期の弁士、溝口健二作品に登場する歌舞伎や新劇といったテーマを取り上げる予定ですが、詳しくは受講生と相談のうえ決定します。日本映画の場合と比較するために、必要に応じて外国映画にかんする文献を読むこともありえます。

前期の「日本映画と演劇(入門)」から続けて履修することで、いっそうの学習効果が期待されます。

授業計画

[第1回]ガイダンス, 資料配布, 発表順の決定など

[第2回]参考上映, 解説, 討議

[第3回]文献輪読と討議(1)

Aaron Gerow, Kitano Takeshi (London: BFI, 2007). (予定)

[第4回]文献輪読と討議(2)

[第5回]文献輪読と討議(3)

[第6回]文献輪読と討議(4)

[第7回]文献輪読と討議(5)

[第8回]文献輪読と討議(6)

[第9回]文献輪読と討議(7)

[第10回]文献輪読と討議(8)

[第11回]文献輪読と討議(9)

[第12回]文献輪読と討議(10)

[第13回]文献輪読と討議(11)

[第14回]文献輪読と討議(12)

[第15回]文献輪読と討議(13); 全体のまとめ

教科書

プリントを配布します。

ただし、受講生の希望によっては開講後に特定の書籍をテキストとして購入してもらっても構いません。

参考文献

適宜紹介しますが、以下はできるだけ早く各自で読んでおくべきでしょう。四方田犬彦『日本映画史100年』(集英社新書、756円)。

評価方法

出席を重視し(30%)、訳読の出来に議論での発言を加味して総合的に評価します。授業期間中に関連作品の上映が行なわれる場合など、適宜レポートの提出を求め、出来に応じて加点することも考えています。

備考

2010年度大学院共通科目講義要項.doc

英文の読解力はもちろん高いに越したことはないものの、語学の授業ではないので、映画学に関心を持ち、かつそのための努力を惜しまぬすべての学生に開かれた授業とします。

前期の「日本映画と演劇（入門）」から続けて受講することが望ましいので、映画学の予備知識がまったくない場合、後期のみ受講は避けたほうが賢明です。

関連 URL

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
人形浄瑠璃文楽の作品世界（入門）	神津 武男	前期	2	火4時限

授業概要・授業の到達目標

「人形浄瑠璃文楽」の作品世界について講じます。具体的には国立劇場（東京）5月の人形浄瑠璃文楽公演で上演される作品および関連作品を取り上げます（演目未詳）。

浄瑠璃本は、人形劇の台本として近世日本の都市住民の娯楽であっただけでなく、近代ではアジアの植民地や南米の移民社会など、ひろく日本人社会で享受された、巨大な、おそらく唯一の江戸文学でした。人文学諸領域において検討されるべき課題と考えます。

なお講義では、近世期の原本（初板初摺本）の複写物を使用して、板本の変体仮名が判読可能となるように進めていきます。

授業計画

- 1 人形浄瑠璃文楽概説（通史）
- 2 人形浄瑠璃文楽概説（研究史）
- 3 人形浄瑠璃文楽概説（研究の基本文献）
- 4 人形浄瑠璃文楽概説（古文献資料）
- 5 作品精読
- 6 作品精読
- 7 作品精読
- 8 作品精読
- 9 作品精読
- 10 作品精読
- 11 作品精読
- 12 作品精読
- 13 作品精読
- 14 前期のまとめ その一
- 15 前期のまとめ その二

教科書

プリントして適宜配布。

参考文献

神津武男「浄瑠璃本史研究」（八木書店、2009年）

評価方法

第1に「レポート」で評価します。レポートの課題は、5月に東京・国立劇場小劇場で行われる人形浄瑠璃文楽公演（学生負担：4,000円程度を予定）を観ての自由論述とします。第2に平常点（参加意欲など）を基準とします。

備考

国立劇場（東京）での文楽公演は、5月、9月、12月、2月（大学暦順）です。講義では直近に上演の作品を具体例として取り上げますので、受講生の皆さんは出来るだけ、文楽公演を観覧してください。

関連URL

国立劇場（日本芸術文化振興会）HP <http://www.ntj.jac.go.jp/>

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。

2010年度大学院全学共通設置科目講義要項

<オープン教育センター提供科目>

科目名	教員氏名	学期	単位	曜日時限
人形浄瑠璃文学の資料学的研究(入門)	神津 武男	前期	2	金 3時限

授業概要・授業の到達目標

「人形浄瑠璃文楽」を研究する際の、基本文献や資料の扱い方につき講じます。

同じく日本の伝統演劇と称えられる「能楽」「歌舞伎」に比して、近代の東京に活動の拠点を持たなかった「人形浄瑠璃」は、近代の学問体系の中でも出遅れていて、歌舞伎研究者の兼業に委ねられることが少なくありません。

一個に独立した研究分野たるにはどのような研究方法が求められるのか。近世期の原資料を駆使して、「人形浄瑠璃文楽」を研究するための方法・手法について、概説します。

基本文献である『義太夫年表 近世篇』の活用方法について習熟するとともに、その利用上の注意点について理解することを目標とします。

授業計画

- [第1回] 概論(人形浄瑠璃の歴史1)
- [第2回] 概論(人形浄瑠璃の歴史2)
- [第3回] 概論(人形浄瑠璃の研究史1)
- [第4回] 概論(人形浄瑠璃の研究史2)
- [第5回] 各論(基本文献『義太夫年表 近世篇』)
- [第6回] 各論(基本文献『義太夫年表 明治篇』)
- [第7回] 各論(基本文献『義太夫年表 大正篇』)
- [第8回] 各論(基本文献『人形浄瑠璃舞台史』)
- [第9回] 各論(原資料「番付」)
- [第10回] 各論(原資料「絵尽」)
- [第11回] 各論(原資料「浄瑠璃本」1通し本)
- [第12回] 各論(原資料「浄瑠璃本」2道行揃)
- [第13回] 各論(原資料「浄瑠璃本」3抜き本)
- [第14回] 総論(まとめ1)
- [第15回] 総論(まとめ2)

教科書

プリントして適宜配布。

参考文献

神津武男「浄瑠璃本史研究」(八木書店、2009年)

評価方法

授業で取り上げる作品について上演史に関するレポートを作成して貰います。

備考

国立劇場(東京)での文楽公演は、5月、9月、12月、2月(大学暦順)です。講義では直近に上演の作品を具体例として取り上げますので、受講生の皆さんは出来るだけ、文楽公演を観覧してください。費用は1部3-6千円です。

関連URL

国立劇場(日本芸術文化振興会)HP <http://www.ntj.jac.go.jp/>

講義要項の内容は、変更、追加される場合がありますので、シラバスシステム(<https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>)で、最新情報を確認してください。